

WHC 第12回OB・OG夏合宿記録 (2018年8月5日～7日)

8月5日、午前11時40分、信州茅野市すずらん峠の「女乃神(めのかみ)茶屋」駐車場に次の18名が集合し、霧ヶ峰における夏合宿が幕を開けました。このうち川崎さんは初参加、他の17名は昨年に続いての参加です。

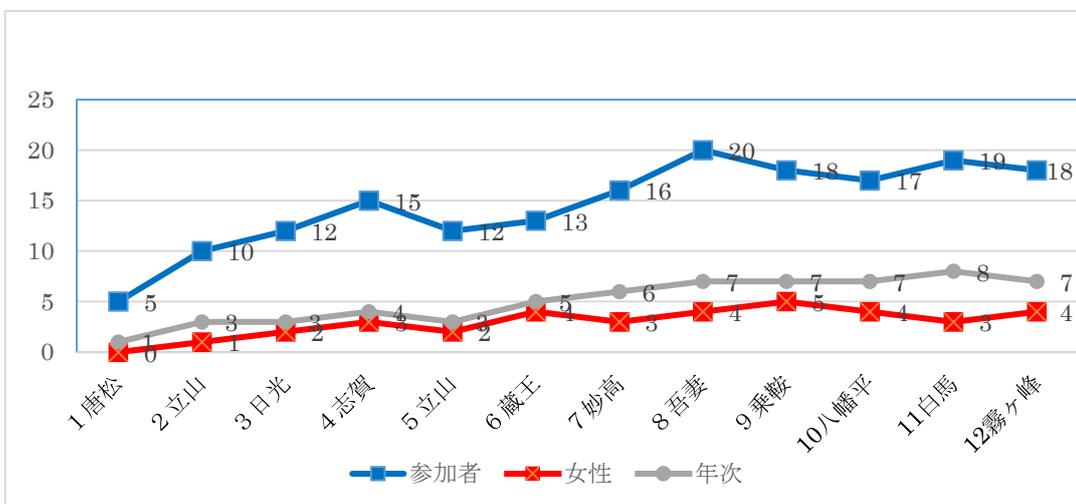
1期…大河内、佐藤一雄、田中 2期…中島 3期…小川戸

4期…大竹、田上、徳渕、西海、花田、五十嵐

5期…佐藤(高橋)牧子 6期…川崎(河口)、杉原(綿貫)、柁木(小幡)、佐藤徹

8期…齋藤(=リーダー)、佐藤憲一

2007年の第1回夏合宿の際、当時60代前半だった4期生が「70歳になるまで続けられたらいいね」と、夢を語っていましたが、その4期生も70代半ばになり、今回は参加者全員が70代でした。



今年は、関東甲信地方の梅雨が史上最速の6月に明け、その後西日本を中心とする豪雨、全国的に強烈な日差しと猛烈な暑さが続き、逆走台風12号の襲来後は再び記録的な猛暑がぶり返しました。そのような中で迎えた合宿は、3日間の行動計画に合わせてくれたような天気になりました。

* * * *

初日は霧ヶ峰の南、蓼科山の南西にある八子ヶ峰(やしがみね)に登りました。女乃神茶屋(標高1740m)での再会の挨拶もそこそこに軽めの荷物を背に歩き始めると、早速青空の下に蓼科山から八ヶ岳の展望が広がり、30分程登ったヒュッテ・アルビシオの先で、ヤブの中に木陰を求めて昼食にしました。持参の弁当にいつものように味噌汁、コーヒー、それにデザートが嬉しい限りでした。本格的な登りはここまででしたが、その後意外としつこい登り下りがあったりして、八子ヶ峰の東峰(この日の最高地点、1869m)着。翌日登る車山山頂の円いドームが目の前にあり、南アルプスの一部がぼんやりと見えていました。また、思ったより花が少なく、点在するマルバダケブキやハクサンフウロを見る程度でした。(花に関する未充足感は2日目に満たされ、溢れることになりました。)



参の弁当にいつものように味噌汁、コーヒー、それにデザートが嬉しい限りでした。本格的な登りはここまででしたが、その後意外としつこい登り下りがあったりして、八子ヶ峰の東峰(この日の最高地点、1869m)着。翌日登る車山山頂の円いドームが目の前にあり、南アルプスの一部がぼんやりと見えていました。また、思ったより花が少なく、点在するマルバダケブキやハクサンフウロを見る程度でした。(花に関する未充足感は2日目に満たされ、溢れることになりました。)

女乃神茶屋へ戻り、白樺湖温泉「すずらんの湯」で半日の汗を気持ちよく流してから今回の宿、姫木平のペンション「赤い屋根」へ向かいました。姫木平は白樺湖から五十嵐第3の故郷・上田に少し下りたところ

ろの長和町にあり、標高1400m余、冬はスキー場にもなる別荘地で、「赤い屋根」は森の中のペンション村にあります。齋藤リーダーの宿選びの目の確かさには毎回感心しますが、今回もご夫婦で38年間切り盛りしている花と緑に囲まれた清潔で料理の美味しい宿で、我々だけの貸切りでお世話になることができました。



ました。

食前酒に軽く喉を潤してから、小川戸OB会長の挨拶、大河内さんの乾杯の発声で楽しい夕食の開始、自家製無農薬野菜をたっぷり使ったサラダからスープ、メインディッシュは魚と肉、さらにケーキ、フルーツへと続くフルコース料理に舌鼓を打ち、飲み物はビールにワイン。食後はベランダで星空観察の後、いつものように賑やかな2次会があり、さすが標高1400mの地、前日までの熱帯夜から解放され心地よい眠りにつ

きました。

* * * * *



2日目(6日)、姫木平の空は少し雲があるくらいの晴天で、さわやかな高原の風が吹き抜けていました。早くから近くの森林浴散歩をしたり、庭に咲く花を愛でたり、テレビ体操で体調を整えたりして、ジュース、ヨーグルト、サラダ、スクランブルエッグ、ソーセージ・・・それに食べ放題の手作りパンへと朝食が進みました。

この日は霧ヶ峰の主要部分を巡りました。齋藤リーダーの計画書には『ゆ〜っくり』歩けるように『たっぷり』余裕を見てあり



ますので、花と景色を『ゆったり』と楽しんでいただけます。」とありましたが、そのとおりの一日になりました。8時出発。まず、ビーナスラインを気持ちよく走り、途中の展望台で下車。なだらかな緑の高原の上に、左から順に、蓼科山、八ヶ岳、やや遠くに富士山、南アルプ

ス、中央アルプス、御嶽山、さらに乗鞍岳から穂高、槍、常念と続く北アルプスの峰々。220度くらいに広がる大展望に感嘆の声を上げました。

八島ビジターセンター(1640m)まで車で行き、八島ヶ原湿原に入ると早速色とりどりの花、花、花・・・主役級ばかりの中で、花組トップにはヤナギランを推しておきます。湿原を3分の1周した鎌が池の先で一



息入れてから、この日一番の登り道にも花、花、花・・・面白い形をした物見岩まで登って、宿の弁当で早めの昼食にしました。少し雲が上がって



きましたが、ここからも四囲の大展望をゆったりと楽しませてもらいました。たっぷり休んでからゆ〜っくりした登り下りで蝶々深山(1836m)へ、その先の車山湿原で2組に分かれ、相対的若者は車山(1925m)まで往復しました。途中の車山乗越辺りのマツムシソウの群落がすてきでした。急な階段道を登った車山山頂では、夏雲

の湧く蓼科山と、その手前に前日歩いた八子ヶ峰を眺め、大きく広がる八島ヶ原湿原を見下ろし、車山神社に詣で、遠くから見えた気象レーダーを間近に見上げました。

車山湿原に戻り、沢沿いの道を沢渡(さわたり)へ向かう途中、ヨツバヒヨドリの群落の中に乱舞するアサギマダラの群れ、そう、ここは「蝶々深山」の中腹ですので、山名の由来と何か関係ありそうな気もしました。中世に狩猟神事が行われた祭祀遺跡という御射山遺跡を経て八島ヶ原湿原の残り3分の1周をしてビジターセンターに戻りました。その途中も湿原を埋め尽くす本当にたくさんの花、花、花・・・



季節が移ろう中で8月初めとなれば、夏の花と秋の花が混在する季節ですが、全般的に花の時期が早かった今年は霧ヶ峰でも季節の進み方が幾分早いようで、夏の花から秋の花へのバトンタッチが進んでいました。ニッコウキスゲは、黄色組のバトンを早々にマルバダケブキやオミナエシに渡し終え、メタカラコウやハンゴンソウ、キンミズヒキもバトン待ち、ミヤマアキノキリンソウはまだウォームアップ中でした。コバイケイソウは白組のバトンをシシウドやヨツバヒヨドリにタッチし終え、次走者のノコギリソウ、ウメバチソウも走り始めていました。赤組のバトンは コオニユリからヤナギラン、アカバナシモツケ、アサマフウロ、それに珍名の可愛い花アキノウナギツカミへ。青組のツリガネニンジン、マツムシソウ、褐色組のワレモコウ、シュロソウ、ヤマホタルブクロ等は一斉スタートの様相でした。



この日も帰路に「すずらんの湯」に立ち寄って前日より多くかいた汗を流し、流した汗以上のビールや牛乳をその場で補給しました。宿に戻ってすぐに夕食、田中さんの発声で乾杯の後、前日同様フルコース料理。その最中に雨の音が聞こえてきましたが、翌日のコースを考えると雨音もあまり気になりませんでした。食後は例によって賑やかな2次会。

* * * *

最終日(7日)は立秋、暦の上での秋を迎えて涼しい朝となりましたが、霧が流れ、小雨がパラついていました。何故か合宿3日目は雨模様の夜明けが3年続いています。

この雨を予想したわけではないでしょうが、この日はそれまでと趣きを変え、雨の日でも楽しめる黒耀石採掘の遺跡探訪コースが用意されていました。黒耀石とは火山岩の一種で、主に黒色でガラス光沢があり、破片が鋭いので石器の材料に使われたりした石です。9時出発。宿から車で10分ほどの「黒耀石体験ミュージアム」を見学して一通りの知識を得た(?)後、星糞(ほしくそ)峠までの登山道をたどって黒耀石の採掘跡へ往復しました。傘を差してミュージアムで渡されたクマ避けの鈴を鳴らしながら山道を行くと、鮮やかな朱色のフシグロセンノウの花が薄暗い森の中にともる灯火のように咲いていました。足元を見ながら歩くと早くも「あった」と黒耀石を見つけた声、その後も光る黒い石を見つけては歓声や嬌





声を上げました。史跡公園になっている採掘跡では、ちょうどお役人とおぼしき人たちが学芸員風の女性から何やら説明を受けているのに出くわして、その一部を聞き取り、さらに知識を高め(?)ました。

なお、ミュージアムに貼ってあった新聞には、星糞峠一帯が近隣市町村の黒耀石遺跡と共に今年5月、「星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒耀石鉱山と縄文人に出会う旅—」として「日本遺産」に認定されたとの記事が掲載されていました。日本遺産とは聞き慣れませんが、全国で67件が認定されているそうです。

また、「星糞」とは中途半端にロマンチックな名前ですが、昔の人が光を浴びてきらきらと輝く黒耀石のカケラを空に輝く星に見立てて、黒耀石をたくさん産出するこの峠に名付けたようです。全国各地にある「金糞(かなくそ)」という地名は鉱石を溶錬した際に出る金属のカケラのことと聞いたことがあります、

それと似たような由来でしょうか。

宿に戻って最後の着替えをしてから打ち上げ。西海OB会副会長の挨拶と乾杯の後、美味しい昼食をいただき、合宿の思い出を語りながらひとときを過ごしてお開きとなり、それぞれの帰途につきました。

企画書どおりの「大展望と咲き乱れる花々はお約束のコース」を堪能させていただいた齋藤リーダー、佐久平ルートからマイカーでご面倒をおかけした田上花博士はじめ、今年も皆さんには大変お世話になりました。次の機会もよろしくお願ひします。ありがとうございました。

霧ヶ峰(き・り・が・みね)を折り込み詠める。

「季節移ろい 立秋迎え 合宿彩る 峰の花」

(記録係 五十嵐昭)

